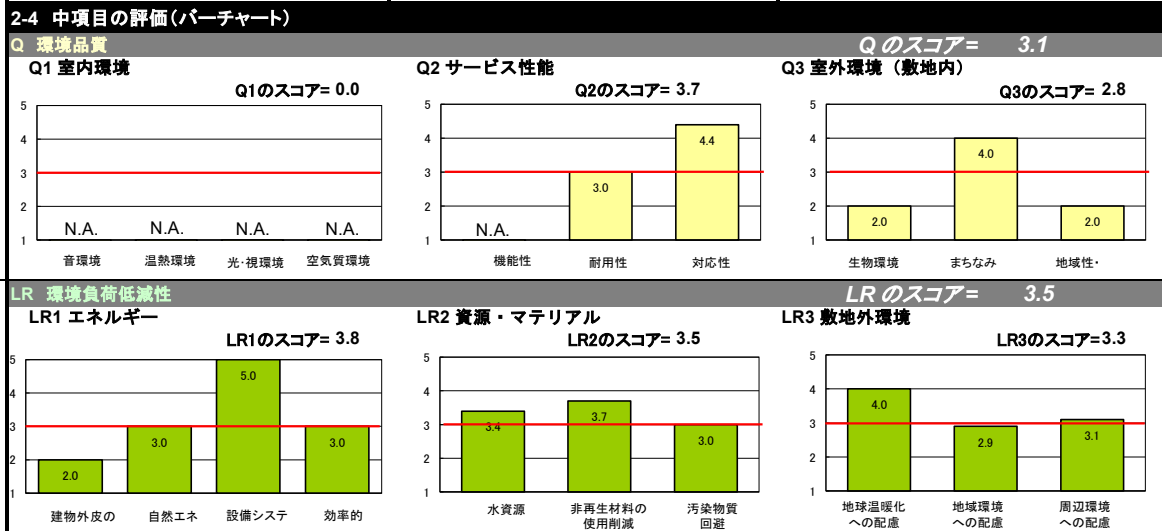
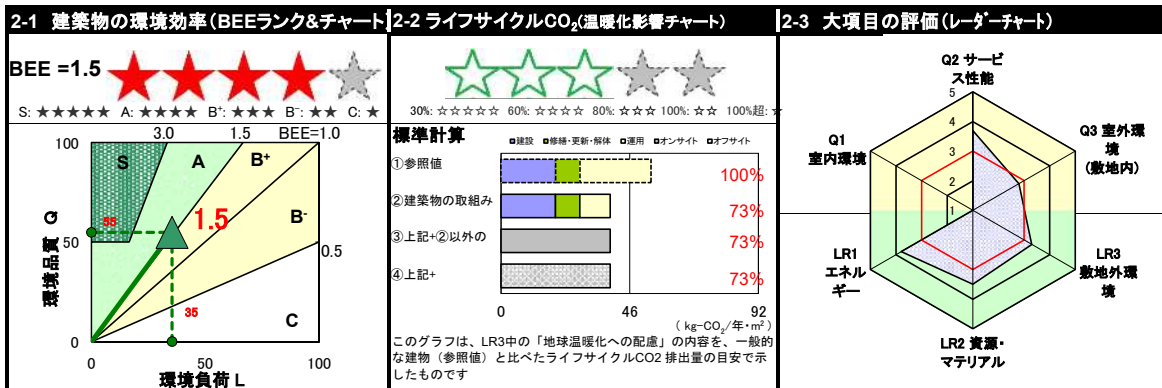


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)小牧新小木物流倉庫	階数	地上4階
建設地	愛知県小牧市新小木三丁目1番 他10筆	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	400 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年4月 予定	評価の実施日	2024年2月5日
敷地面積	24,772 m ²	作成者	鈴木 陽介
建築面積	15,727 m ²	確認日	2024年2月5日
延床面積	54,312 m ²	確認者	岩治 洋



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.0	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.6	1.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	19.1 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
	＜外装材に使用した地域性のある材料＞
	なし
	＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100
建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)小牧新小木物流倉庫

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		独自基準	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質															3.1
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境															
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境															
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境															
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能															
1 機能性				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画			独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				0.5	3.0	0.52	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.2	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.4	4.4	0.48	-	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		基準階階高6700mm	-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.073	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			倉庫・パース部床荷重15000N/m ²	3.0	5.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	建物位置のセットバックによる視点場への配慮、植栽による景観形成	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	1.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	2.0	0.20	-	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.43	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		自動水栓及び節水器具の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.7	0.63	-	-	-	3.7
2.1	材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	事務所・共用部天井：岩綿吸音板 共用部：ビニル床シート	3.0	4.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体・軽鉄内装下地、OAフロアの採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	2.0	0.33	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=1	-	4.0	0.33	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率73%	-	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1	大気汚染防止		燃焼設備を使用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	污水处理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐輪場、バイク置場、乗用車・荷捌き車両駐車スペースの確保	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドライン チェックリストを一部達成	-	4.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
【仮称】小牧新小木物流倉庫

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	② 資源の有効活用	3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19		
③ 敷地内の緑化					2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:19.1%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)			1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)小牧新小木物流倉庫

計画上の配慮事項	
総合	地域にやさしい環境配慮型施設を目指し、省エネ機器の採用、緑地の整備（地域植生の採用）並びに公共交通機関利用の促進を行った。
Q1 室内環境	※対象外
Q2 サービス性能	・内装材は耐用年数20年以上の素材を使用。 ・排水：B、給水：B Eは不使用。 ・基準階階高6.7m、倉庫・バース部床荷重15000N/㎡。
Q3 室外環境（敷地内）	・主要経路である北側県道より建物をセットバックするとともに、地域植生をベースとした植栽帯を設けた。
LR1 エネルギー	・省エネ機器を採用し、BEI_m=0.43とした。
LR2 資源・マテリアル	・節水タイプの衛生機器を採用。 ・エコマーク製品の内装材を2品目採用。
LR3 敷地外環境	・駐輪場、バイク置場、その他駐車スペースを敷地内に適切量確保。
その他	